

いの流水俳壇

「大國様俳句献句大会」

友草 水月選
かまきりの逆さに虚子の句碑なぞる

片岡 包女

〔評〕大國様の境内には、俳人、高浜虚子の句碑がある。また民俗学者であり歌人でもある折口信夫（釋道空）の歌碑もあり、兩人ともい町とは縁のある人である。虚子の句碑は「紙を漉く女もかざす珊瑚かな」という句である。

この句碑にかまきりが逆さになって字をなぞっているというのである。かまきりと句碑との取り合わせの意外性が当日の最高の6点句となった。

○蠨螂の大仏殿に飛びこめり
三枝 正子

※注釈 蠨螂とは、かまきりのこと

一舟の流るる仁淀秋深む

大川 節弥

〔評〕9月も半ばになると朝夕は涼しくなり空気も澄み、仁淀川も「ブルー」が濃くなり秋もだんだんと深くなっていくのを感じる。川に、一艘の舟が浮かんでいる。鮎魚を浮かしているのだろうか。この句は仁淀川に浮かぶ舟一艘の風景を秋深むで締めくくり、いろいろなことをいわないで簡潔にまとめ一幅の絵となっている。上五の「一舟」の置き方は流石に節弥さんである。

○秋深し芸者がおどる白虎隊

山口 青柳

秋気澄む水音豊かに神の池

刈谷 志津

〔評〕秋気澄むとは秋になり大気が澄むことである。大陸から乾燥した冷たい空

気が流れ込むため空気が乾燥してくる。社殿の西側に岩清水が湧き池にはたくさんの鯉が泳いでいる。樋から落ちる水音は切れることなく豊かである。水が多ければたくさん鯉も群れて元気に泳いでいることが想像でき神の池、神の鯉である。水音豊かの表現がよく生きている。

○塔やけふ秋澄みたりし羽黒山
鷲谷七菜子

神木もほっと一息秋の風

森岡 照月

〔評〕例年になく今年暑く真夏日が続いた。毎日のようにテレビなどで熱中症の注意報が出され私たちはその脅威に曝された。9月も半ばになると日中でも30度を越すこともなく涼しくなり、熱中症の心配もなく食欲も進みほっとしている。大國様の老杉をはじめ多くの木々もほっとしているだろうと詠んでいる。この句は擬人法ではあるが、句の意外性でさわやかな句となった。

○秋風や横様のちがふ皿二つ

石原 鼎

秋一日乙女となりて恋みくじ

國田 貞子

〔評〕秋のある日神社の参拝に行っておみくじを引いた。しかし今日は昔の少女に返っておみくじを引いたのである。果たしてこの恋は成就するのか、失恋に終わるのか、神様の意に従うかどうか。色恋には年齢は関係ないと言われない。若さ長命の秘訣は恋心を捨てないことであるとか。

○この秋はおいらんさうの皆白し

北原 白秋

こっそりと引く恋みくじ風九月

小野川町子

〔評〕偶然にも前掲の「乙女となりて」國田さんと同じ恋みくじである。心象的にはよく似ているが、この句は他人に

知られないようにこっそりと恋みくじを引いているのである。今さらよい歳をしての含羞が覗いている素直な心情である。季語の「風九月」は9月も中旬ともなると残暑もやわらぎ秋風が吹き始め、月見や彼岸が済むと七草が咲き本格的な秋へと移行する。

○父の頭が見えて九月の黍畑
宮田 正和

二句抄

遥空の歌碑に残暑の程を問ふ 問 浩太

おがたまの樹の良き名の蝶棲めり 川村 博子

涼新た献句の座に畏まる 山本 呆齋

秋の雲半線電車の遠ざかる 宇賀 佳世

秋澄むや神氣刻々新たななる 竹山 律

紙業の碑ほとり曼珠沙華 宇賀 佳世

秋蝶のふんわり神杉木もれ日 竹山 律

蟬たえて宮居静かに風渡り 竹崎たかひろ

おどおどと驚の歩みの大刈田 津田 久美

深閑と宮の玉砂利秋の風 石原 静

図書館に秋を探しているひとひ 岡村 嘉夫

爽やかに大國様の小槌かな 片岡 包女

高値付く庶民の味の初秋刀魚 大川 節弥

秋陽濃し障子に枝の陰絵あり 劉谷 志津

青空や高校球児の白い波 森岡 照月

色褪せてあと何日の百日紅 國田 貞子

水切りの転がり競ういわし雲 小野川町子

神の庭みかど揚羽に身を反し 友草 水月

この里の鎮めの杜や秋の風 友草 水月

玉砂利にこぼれ色足す秋落葉 友草 水月

秋の夜の思めぐらす我が余生 友草 水月

御手洗や背すじ伸ばせば秋の風 友草 水月

秋天や仁淀ブルーのなほ深し 友草 水月

玉砂利の音の先ゆく今朝の秋 友草 水月

鯉跳ねて静寂をやぶる宮の秋 友草 水月

次題 「当季雑詠」
締め切り 毎月5日

投句先 教育委員会事務局

いの町170011
雷89311922

今月のごも川柳

火の花は 夜空にうかぶ 魔法かな

枝川小 6年 山田真奈美

〔評〕よみ出しの「火の花」に対し、下五「魔法かな」大人顔負けの表現に驚かされる。こんな気持ちで花火を見ている大人も少ないと思う。豊かな感性、大切に育てて欲しい。

お泊まりで 思いでいっぱい 傷いっぱい

伊野南小 5年 有岡 美咲

〔評〕夏休みのお泊まりだと思ふ。作者のよまれている通り良いことばかりではない。楽しい思い出と共に傷ついたこと、正直で素直に言っている川柳でうれしい気持ちになる。

宿題を やつてもやつても 終わらない

枝川小 6年 森本こころ

夏休み 納涼祭で しめくくり

伊野南小 5年 山下 響希

ともだちは いつもしんせつ ありがとう

枝川小 3年 村田 ひな

夏休み 勉強遊び むが夢中

枝川小 6年 深田 萌花

夏休み 家族りょうろで 大荷物

伊野南小 5年 尾崎 彩羽

秋になり 夏のおもいで ふりかえる

枝川小 6年 柳瀬ひなた

かぞくはね たからものだよ たいせつに

川内小 2年 森田かりん

いえの前で キャンプをやった またやりたい

枝川小 6年 尾崎心太郎

「ごも川柳」は町内全小学校の児童の皆さんを対象に募集しています。次回提出締め切りは11月10日（火）です。皆さんからたくさん応募をお待ちしています。（応募は各小学校を通じてお願いします。）
※選評は、川柳連会の皆さんにお願いしています。